

## 外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/09/03.

### 米欧中の三すくみ

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	リスクセンチメントを見ながら 予想レンジ: 77.50 ~ 83.20 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	↓	NZ準備銀行総裁の交代に注目 予想レンジ: 60.00 ~ 64.70 円	4-5
<u>ランド/円</u>	→	国内インフレ率と世界経済がカギ 予想レンジ: 8.80 ~ 9.80 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



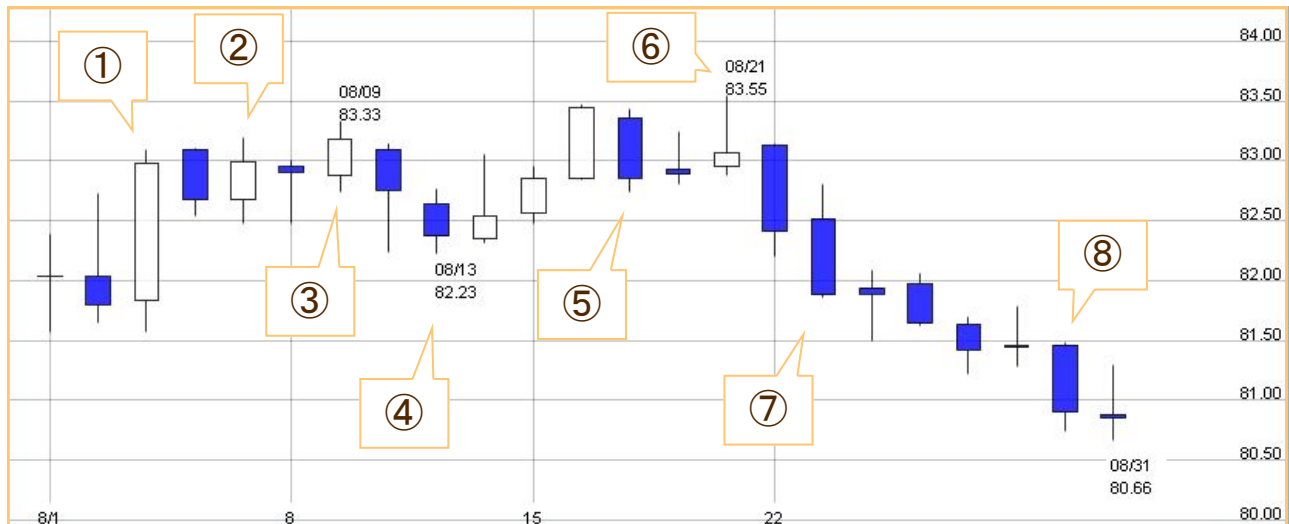
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD / JPY

## 豪ドル/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	82.03円	83.55円	80.66円	80.85円



- ① 3日、米7月失業率は8.3%と予想(8.2%)よりも弱い結果となったが、非農業部門雇用者数が16.3万人と予想(10.0万人増)を上回る結果となった。これを受けてNYダウ平均先物が大きく上昇すると、豪ドル/円は上昇した。その後発表された米7月ISM非製造業景況指数が52.6と予想(52.0)を上回った事も重なり、豪ドル/円は約3か月ぶりに83円台に乗せた。
- ② 7日、豪準備銀行(RBA)は事前予想通り、政策金利の3.50%据え置きを決定。声明文では国内や中国经济については楽観的な見方を示した事が好感され、豪ドル/円は小幅に値を上げたが、欧州情勢に対する懸念などを背景に緩和的なスタンスを崩していなかったため、その後は伸び悩んだ。
- ③ 9日、豪7月失業率が5.2%(予想:5.3%)、新規雇用者数が1.40万人増(同:1.00万人増)となった事を好感して、豪ドル/円は40銭近く値を上げた。
- ④ 13日、ギリシャ第2四半期国内総生産(GDP)が前年比-6.2%と予想(-7.0%)ほど悪い結果とはならなかった事を受け、ユーロ/豪ドルでユーロ買いが強まった。序盤にNYダウ平均株価が大きく値を下げた事も重なり、豪ドル/円は82.23円まで下落した。
- ⑤ 17日、豪財務省が「豪ドル高がさらに進んだ場合、金利を引き下げるべき」との見解を示したことが一部通信社によって伝えられ、豪ドル/円は下落。その後スペイン国債の利回り低下を背景に、ユーロ/豪ドルでユーロ買いが優勢となった事も、豪ドル/円相場の重石となった。
- ⑥ 21日、この日公表された豪準備銀行(RBA)理事会の議事録では「過去の利下げの効果が顕著になるまでには、なお一定の期間を要する見込み」とし、追加利下げを示唆する内容が伝えられなかった。これを受けて豪ドル/円は買いが優勢となった。その後、英紙にアスムセン欧州中銀(ECB)専務理事の「ユーロ崩壊を防ぎ欧州債務危機を転換させるために、大量のイタリア・スペイン国債購入を支持」という見解が掲載された事をきっかけに、欧州株が上昇した。これを受けたユーロ/円の上昇に連れて、豪ドル/円は4月30日以来となる83.55円まで上昇した。
- ⑦ 23日、中国8月HSBCフラッシュ製造業PMIが47.8と前月(49.3)より悪化した事を受け、豪ドル/円は売りが優勢となった。NYダウ平均株価が寄り付きから軟調に推移すると、豪ドル/円は続落した。
- ⑧ 30日、NYダウ平均株価や原油相場の下落をきっかけに、豪ドル/米ドルが1.03ドルの節目を割り込んで下げ足を速めると、豪ドル/円は80.74円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

8月の豪ドル/円相場は80.66円～83.55円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.5%の下落(豪ドル安・円高)となった。上旬は夏休みシーズンで取引の薄い中、相場は方向感の定まらない展開が続いた。しかし中旬以降、9月6日のECB理事会での政策対応期待からユーロ/豪ドルでユーロ買いが優勢となった事や、中国経済の減速懸念を背景に、月末にかけて弱含んだ。

9月の豪ドル/円相場は、欧州と米国の中国の3極を見ながらのリスクセンチメントがカギとなろう。まず欧州では6日のECB理事会にて、問題国の国債買い入れや利下げなど思い切った策にまで踏み込み、市場の期待に応えられるかがポイントである。

次に、米国では13日のFOMCでの追加金融緩和の有無を占うべく、7日の米8月雇用統計が注目されよう。今までは緩和観測が高まれば豪ドル買い・ドル売りを背景に豪ドル/円は上昇したが、先月のFOMC議事録後の反応では、豪ドル/米ドルの上昇以上にドル/円急落の影響を受けて、豪ドル/円は下落した。今までは異なる動きを見せた事から、足下では相場の潮目が変わっている可能性があり、緩和観測が高まってもドル/円が急落するようだと、豪ドル/円相場の下押し要因となりうる点には注意したい。その他、中国の景気減速懸念が強まる場面も、豪ドル/円売りの材料となろう。(川畑)

(予想レンジ:77.50～83.20円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

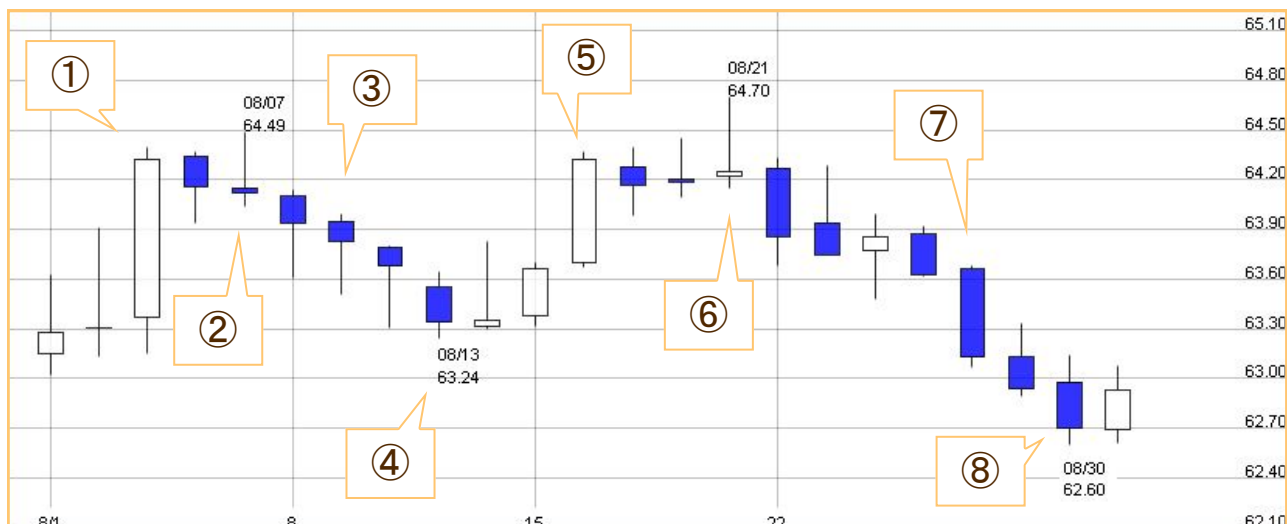
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/3(月)	7月豪小売売上高	9/10(月)	7月日貿易収支
9/4(火)	RBAキャッシュターゲット		8月中国貿易収支
	8月米ISM製造業景況指数	9/13(木)	FOMC政策金利発表
9/5(水)	第2四半期豪GDP	9/14(金)	8月米消費者物価指数
9/6(木)	8月豪雇用統計		8月米小売売上高
	欧州中銀金融政策発表		9月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米ADP全国雇用者数	9/17(月)	9月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	8月米ISM非製造業景況指数	9/18(火)	RBA議事録
9/7(金)	7月豪貿易収支	9/19(水)	日銀金融政策決定会合(18日～発表)
	8月米雇用統計	9/20(木)	8月日通関ベース貿易収支
9/9(日)	8月中国消費者物価指数	9/28(金)	9月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## NZドル/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	63.15	64.70円	62.60円	62.93円



- |   |                                                                                                                                                                                                       |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 3日、格付け会社S&PがNZの格付け見通しを据え置いた事を受け、NZドル/円は小幅に上昇した。その後、米7月非農業部門雇用者数が16.3万人と予想(10.0万人増)を上回る結果となった事を受けてNYダウ平均先物が大きく上昇すると、NZドル/円は続伸。その後に発表された米7月ISM非製造業景況指数が52.6と予想(52.0)を上回った事も重なり、NZドル/円は約63.91円まで一段高となった。 |
| ② | 7日、前日にボラードNZ準備銀行(RBNZ)総裁がNZドル高けん制発言をした事に加え、キーNZ首相が「RBNZには利下げ余地がある」と発言。これを嫌気してNZドル/円は直後に20銭ほど下げた。                                                                                                      |
| ③ | 9日、NZ第2四半期失業率が6.8%(予想6.5%、前回6.7%)となった。これを受け、直後の市場ではNZドル/円は30銭前後急落した。                                                                                                                                  |
| ④ | 13日、イングリッシュNZ財務相がNZドル高けん制発言を行うと、直後の市場ではNZドル/円は小幅に下落。その後、ギリシャの4-6月期国内総生産が前年比-6.2%と市場予想(-7.0%)ほど悪い結果でなかったことからユーロが買われ、ユーロ/NZドルでユーロ高・NZドル安が進行。NZドル/円は一時63.24円まで一段安となった。                                   |
| ⑤ | 16日、メルケル独首相は、先月のドラギ欧州中銀(ECB)総裁の「ユーロを守るために必要な事は何でもする」との考えを支持。これを受け、ECBへの政策期待が高まり、NYダウ平均が一時100ドル超上昇し、原油相場が上昇すると、NZドル/円は上昇した。                                                                            |
| ⑥ | 21日、英紙にアスムセン欧州中銀(ECB)専務理事の「ユーロ崩壊を防ぎ欧州債務危機を転換させるために、大量のイタリア・スペイン国債購入を支持」という見解が掲載された事をきっかけに、ユーロ/円の上昇に連れて、NZドル/円は5月3日以来となる64.70円まで上昇。ただ、その後ユーロ/NZドルでユーロ買いが強まったため、NZドル/円の上昇の勢いは長くは続かずに失速した。               |
| ⑦ | 28日、NZ最大の乳製品加工業者フォンテラ社が、NZドル高を理由に農家からの生乳買取価格の見通しを引き下げた。これを受け、NZドル/円は約40銭近く急落した。その後上海株の急騰を手掛かりに反発するも、欧米市場でもフォンテラ社の見通しが蒸し返されると、NZドル/円は再び値を下げた。                                                          |
| ⑧ | 30日、NYダウ平均株価や原油相場の下落をきっかけに、NZドル/米ドルが0.80ドルの節目を割り込んで下げ足を速めると、NZドル/円は7月27日以来となる62.60円まで下落した。                                                                                                            |

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD / JPY

## 今月のポイント

8月のNZドル/円相場は62.60円～64.70円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.4%の下落(NZドル安・円高)となった。上旬から中旬にかけてNZ政府の要人サイドからNZドル高けん制発言が出たが、総じて方向感に乏しい展開が続いた。しかし、下旬に入りフォンテラ社がNZドル高の影響を理由に農家からの生乳買取価格の見通しを引き下げた事をきっかけに、NYダウ平均株価の下落も相まってNZドル/円は下落した。夏休みシーズンで市場のムードが9月の米FOMCやECB理事会待ちとなった事もあり、NZ国内の材料で相場が左右される展開が見られた。

今月は、前述の欧米のほか、中国の動向が手掛かり材料となろう。米国では追加金融緩和、欧州ではECBによる問題国債券の買い取りが、それぞれ期待されている。期待が高まっている分、期待を裏切る内容が伝えられる場合は失望感からリスク回避の動きが強まる可能性があり、NZドル/円の下押し要因となろう。中国経済の減速懸念が高まる場合も同様である。

一方、NZ国内では13日に金融政策発表が予定されている。先月はNZドル高けん制発言が相次いだが、その後NZドルは対円・対ドルで下落傾向にある。声明でNZドル高に対してそれほど懸念を示さず、堅調な国内景気や今後の震災復興需要、足下で高騰する穀物価格などを理由に楽観的な見通しを示すようだと、NZドル/円が買われる事も考えられる。なお、ボラードRBNZ総裁は今年25日をもって退任し、元世界銀行専務理事のグレーム・ウィラー氏が就任する予定となっている。足下でのNZドル高など、今後の金融政策に注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 60.00～64.70円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

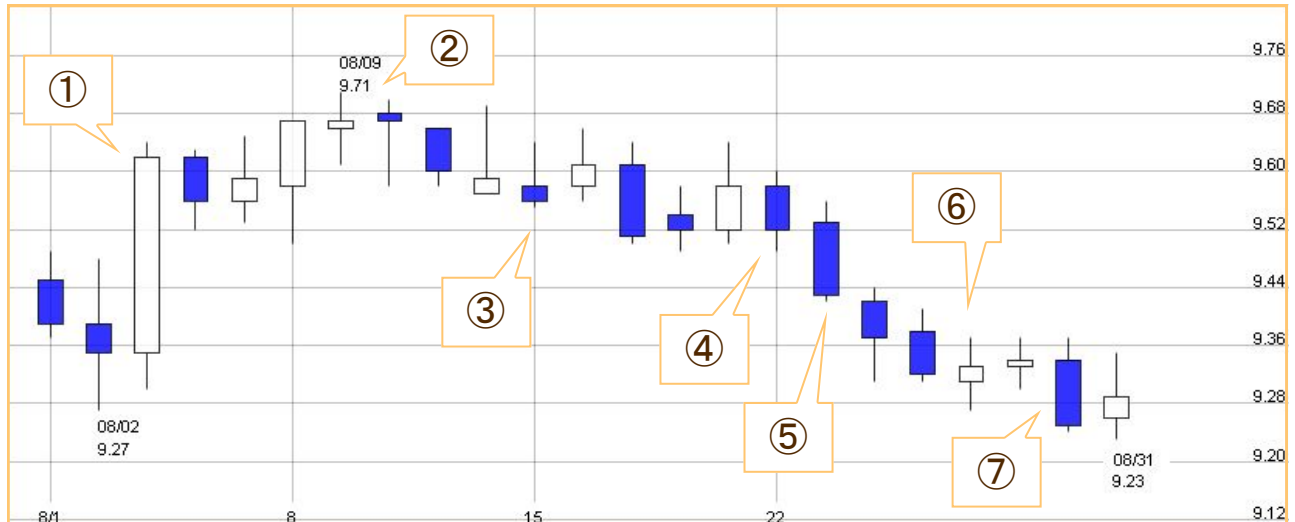
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/2(日)	8月中国製造業PMI	9/13(木)	FOMC政策金利発表
9/4(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/14(金)	8月米消費者物価指数
9/6(木)	欧州中銀金融政策発表		8月米小売売上高
	8月米ADP全国雇用者数		9月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米ISM非製造業景況指数	9/17(月)	9月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
9/7(金)	8月米雇用統計	9/19(水)	第2四半期NZ経常収支
9/9(日)	8月中国消費者物価指数		日銀金融政策決定会合(18日～発表)
9/10(月)	7月日貿易収支	9/20(木)	8月日通関ベース貿易収支
	8月中国貿易収支	9/26(水)	8月NZ貿易収支
9/13(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレートの	9/28(金)	8月NZ住宅建設許可

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## ランド/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.45円	9.71円	9.23円	9.29円



①

3日、米7月失業率は8.3%と予想(8.2%)よりも弱い結果となったが、非農業部門雇用者数が16.3万人と予想(10.0万人増)を上回る結果となった。これを受けてNYダウ平均先物が大きく上昇すると、ランド/円は上昇した。その後に発表された米7月ISM非製造業景況指数が52.6と予想(52.0)を上回った事も重なり、ランド/円は一段高となった。

②

9日、米新規失業保険申請件数が36.1万件と、予想(37.0万件)より強い内容となった。これを受けてドル/円やNYダウ平均株価が上昇すると、ランド/円は9.71円まで連れ高となった

③

15日、南ア6月実質小売売上高が前年比+8.3%と予想(+4.7%)を大きく上回ったが、ランド/円相場の反応は薄かった。

④

22日、南ア7月消費者物価指数が前年比+4.9%(予想+5.2%、前回+5.5%)となり、発表直後はわずかにランド売りが優勢となった。その後公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録では、「多数のメンバーは、持続的な成長がなければ早期に追加緩和と判断」等の見方が示された。これを受けドルが主要通貨に対して売られたが、ランド/円はドル/円急落の影響をより強く受けて値を下げた。

⑤

23日、中国8月HSBCフラッシュ製造業PMIが47.8と前月(49.3)より悪化した事を受け、ランド/円は売りが優勢となった。その後NYダウ平均が寄り付きから軟調に推移すると、ランド/円は続落した。

⑥

28日、南ア第2四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+3.2%(予想+3.3%、前回+2.7%)と伝えられたが、市場の反応は限られた。

⑦

30日、NYダウ平均株価や原油相場の下落をきっかけに、リスク回避の動きが強まり、ランド/円は下落した。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

8月のランド/円相場は9.23円～9.71円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.5%の下落(ランド安・円高)となった。序盤こそ米7月雇用統計を好感した株高を背景にランド/円は高止まりしたが、その後は夏休みシーズンによる取引参加者減少で動意の薄い展開となり、後半には中国経済の減速懸念などを背景に弱含んだ。

今月のランド/円相場も、米国や欧州、中国の状況をにらみながらの展開が予想される。米欧では追加金融緩和期待が高まっており、これを受けて主要国で株高が進むようならば、ランド/円の追い風となろう。ただ、先月発表された同国の7月消費者物価指数が前年比+4.9%と、市場予想(+5.2%)・SARB予想(7月時点で、2012年平均は+5.6%)いずれも下回ったことで、足下ではSARBの予想よりも早いペースでインフレ率の見通しが低下している。このことから、インフレ率の一段の伸びの鈍化や世界経済の見通し悪化等が重なれば、SARBの再利下げ観測が浮上する事も予想されるだけに、「リスク・オン」の局面でもランドが他の資源国・新興国通貨より選好されるとは考えにくい。一方で中国経済の減速懸念は根強く、発表される経済指標が予想を下回る場合、アジア市場だけでなく欧米市場でも蒸し返されて、リスク回避の動きからランド/円の下押し要因となる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:8.80～9.80円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/4(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/14(金)	8月米小売売上高
9/6(木)	欧州中銀金融政策発表		9月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米ADP全国雇用者数	9/17(月)	9月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	8月米ISM非製造業景況指数	9/19(木)	日銀金融政策決定会合(18日～発表)
9/7(金)	8月米雇用統計		8月南ア生産者物価指数
9/9(日)	8月中国消費者物価指数	9/20(木)	8月日通関ベース貿易収支
9/10(月)	7月日貿易収支		SARBオフィシャル・キャッシュレート
	8月中国貿易収支	9/28(金)	8月米シカゴ購買部協会景気指数
9/13(木)	FOMC政策金利発表	未定	7月南ア貿易収支
9/14(金)	8月米消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。